

平成 27 年度 第 4 回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 27 年 12 月 8 日（火）10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 4 階 407-2 会議室

出席者：林座長、大原委員、鍵屋委員、国崎委員、黒田委員、丸谷委員、渡邊委員、岩田委員

進藤参事官、山田参事官補佐

2. 議事概要

議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。なお、議事の進行は、議題（2）「研修指導要領について」から実施した。

（2）「研修指導要領」について

研修指導要領の作成に向けた基礎作業として事務局で整理を進めている資料 2-4-2「研修内容の体系的整理（案）」について意見交換を行った。

- 資料 2-4-2 として示されているように、研修の枠組みと具体内容を階層ごとに整理しながら、研修内容を体系的に整理する方向はよい。
- 各階層の項目・内容に抜け落ちが生じないように整理するとともに、階層性を考慮し、上下の階層の関係性を整理して、体系化をはかればよい。
- 防災基本計画の内容は、研修内容の体系整理にあたり基本骨格となるが、防災計画作成の前提条件となる被害想定も、骨格の一つとすべき。また、「ハザードを理解する」や「リスクを評価する」を、重要項目とし位置づけてはどうか。
- レジリエンス（resilience）を高めるものとして予測力・予防力・対応力があげられているが、このうち予防力・対応力について規定しているのが防災基本計画であり、その前提となる被害想定は予測力に関係する部分となる。体系整理において、重要な項目であり高い階層で扱えばよいのではないか。
- 階層は、第一、二階層が主たる見出し項目で、三～五の階層において構造的整理が行われている。
- 「防災基本計画に書いてあることを実行できる」ことを研修の達成目標とし、予防、応急、復旧・復興といった時間経過に伴う対応について研修で教えることとして整理してきた。資料 2-4-2 中では、第三階層以降に、これが構造的に示され、第一、二階層が主たる見出し項目となっている。
- 資料 2-4-2 は、総則、予防、応急、復旧復興からなる地域防災計画の構成を参考とし、高い階層の項目に、予防、応急、復旧復興だけでなく、「総則」を

入れ、整理すればよいのではないか。この「総則」にあたる項目内で、防災の捉え方、地勢や自然環境などの地域特性、ハザードなどの内容を扱えばよい。なお、この「総則」に係る内容は、有明研修の「総合コース」で教えればよい。

- 資料2-4-2が体系的に整理されることで、防災スペシャリスト養成の全体像が明らかになる。これを踏まえ、改めて研修のコースや内容を整理すればよい。
- 資料2-4-2の各項目のいくつかは、他の項目に関連するものがある。この項目間の関連性が明示されるなどの工夫が資料上であるとよい。
- 各階層の項目ごとに学習目標を設定し、この学習目標を抜きだし整理することで研修指導要領とすればよい。
- 資料2-4-2は、「減災対策」コース部分をモデルに整理を進めているが、その他のコースについても関連付け整理し、研修内容を体系的に整理すればよい。

(1) 「防災行政概要」について

資料1-3-2「防災行政概要」に関し、改善すべき点の意見交換を行った。

- P. 3「防災・減災のフェーズと対策」で示している災害対応の原則に、「いち早く社会をもとに戻す」や「災害を機により強いまちにする（Build back better）」の2つのメッセージも追加してはどうか。
- P. 24「災害に強いまちづくり」のスライド内の写真にタイトルをつけキーワードとして明示することで、学習すべき事項を理解しやすくしてはどうか。
- P. 25～36で扱っている災害予防に関する各テーマが、住民向けであったり、企業向けとなったりしている。主体別に整理しわかりやすくしてはどうか。
- 「災害予防」は、「被害抑止」の類と「被害軽減」の類とに区分できる。また、国、地方公共団体、企業、住民など主体別に整理できるのではないか。この区分の概念を整理し明示できればよい。
- 予防において、多様な主体の参画による防災の推進などのスライドを追加してもよいのではないか。主体別の役割を示してもよいのではないか。
- P. 27の「災害教訓の伝承」については、事例なども交え内容の充実をはかる必要があるのではないか。教えるべき要素をキーワードとして追加するほか、下階層で別スライドを設けるなどの工夫が必要ではないか。
- P. 37「災害予防対策」のまとめでは、「被害軽減（Preparedness）」について整理されているが、災害に強いまちづくりや耐震化など「被害抑止（Mitigation）」と併せて、2つで予防対策として示した方がよい。
- P. 37「災害予防対策」のまとめにある「期待する取組」は、「自助・共助が中心となる取組」にしたほうがよいのではないか。災害対応業務から伸びる矢印は、「期待する取組」にもつなげ、また自助・共助の取り組み例として、安否確認、避難誘導、避難所運営、初期消火を入れるとよいのではないか。
- 「2、災害予防」の項目名を、「平時の対策」としてはどうか。

- P. 39～43の「3. 直前対策」について、「情報（警報）」と「避難」との二つのテーマに区分して整理したほうがよいのではないか。また、市町村にとって、「情報（警報）」に関して学ぶべきことは多いため、「情報（警報）」の内容を詳しくしたほうがよい。
- 水害への対策は、タイムラインがキーワードとなっている。P. 44の「直前対策」のまとめで、タイムラインについて表記してはどうか。
- P. 77の「復旧復興」のまとめの図について、復興の基本に基盤復興があり、その上に社会と生活、産業の各復興が位置づけられる図として改めた方がよい。図全体が、立体で表現されればよい。
- 避難所運営のように、P. 34「避難所運営体制整備」と、P. 63「避難所設置運営」として、「予防」と「対応」の両面から説明しているテーマについては、それぞれのスライドを関連付ける工夫も必要ではないか。
- 講義時に、災害時の「対応」について説明した上で、適切な対応のために平時に行うべき準備や対策など「予防」について解説することが、受講生の理解につながりやすい場合もある。一方、「予防」と「対応」を、平時から災害に至る時系列の中で示す方が理解しやすい場合もある。受講者の理解のしやすさを考慮して、テキストの構成が整理できればよい。
- テキスト「防災行政概要」は、防災行政について学ぶべき事項の全体を示したものとして体系的に整理する。これを研修で活用する場合は、講師がスライドを選び、話す内容に応じて並び替えて活用すればよい。75分で話す内容だけにする必要はない。
- テキストの改善を進める中で、例えば、ハザードマップを説明するスライド中に法的根拠を示すなどして、テキストを見る側に気づきを与えたり、重要ポイントへの理解を促す工夫が必要。
- 各スライドにインデックスをつけ、講師が話すテーマに応じてカスタマイズして使いやすいように整理しておいてもよいのではないか。

(3) コーディネーターの選定

- コースコーディネータは、各コース1名を指名するものとし、「訓練企画」は黒田洋司氏、「物資物流・行政」は宇田川真之氏、「復旧復興」は中林一樹氏を新規コーディネーターとしてお願いすることとした。

(4) 講座の見直しの報告（H27年度第2期に向けて）

事務局より、H27年度第2期に向けた講座の見直しの報告があった。

以上